

## 目 次

---

### 第1章 計画の改定にあたって

- 1 計画改定の目的 . . . . . 1
- 2 計画の位置付け . . . . . 1
- 3 従前計画の取組内容と評価 . . . . . 2
  - (1) ライフステージに応じたスポーツの推進
  - (2) トップスポーツの推進
  - (3) スポーツ施設の整備・充実
- 4 計画改定のポイント . . . . . 8
- 5 計画期間及び進捗管理 . . . . . 9

### 第2章 現状と課題及び課題解決に向けた基本方針

- 1 スポーツによるまちづくり . . . . . 1 1
  - (1) トップチーム支援
  - (2) おかやまマラソン
  - (3) 大規模スポーツ大会の誘致
- 2 東京オリンピック・パラリンピック等を契機としたスポーツの振興 . . . . . 1 4
  - (1) 東京オリンピック・パラリンピック等の事前キャンプ誘致及びホストタウン事業の推進
  - (2) 競技スポーツの振興
- 3 スポーツに対する市民総参加 . . . . . 1 8
  - (1) 幼児期
  - (2) 小・中学校期
  - (3) 成年期・全世代
  - (4) 高齢者
  - (5) 障害者
  - (6) スポーツ施設の整備及び管理
  - (7) 学校体育施設の開放
  - (8) 体育団体の育成

### 第3章 計画推進のための具体的施策

- 1 スポーツを通じたまちの活性化と一体感の醸成 . . . . . 2 7
- 2 東京オリンピック・パラリンピック等を通じた地域振興と競技力の向上 . . . . . 2 9
- 3 ライフステージに応じたスポーツの振興 . . . . . 3 1

用語解説 . . . . . 3 7

資料編 . . . . . 4 1

## 第1章 計画の改定にあたって

### 1 計画改定の目的

岡山市では、平成23年に施行されたスポーツ基本法（※1）、平成24年に策定された国のスポーツ基本計画（※2）を参考に、子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツ（※3）に親しむことができる環境の実現を目指して、平成24年に「岡山市スポーツ推進計画」を策定しました。

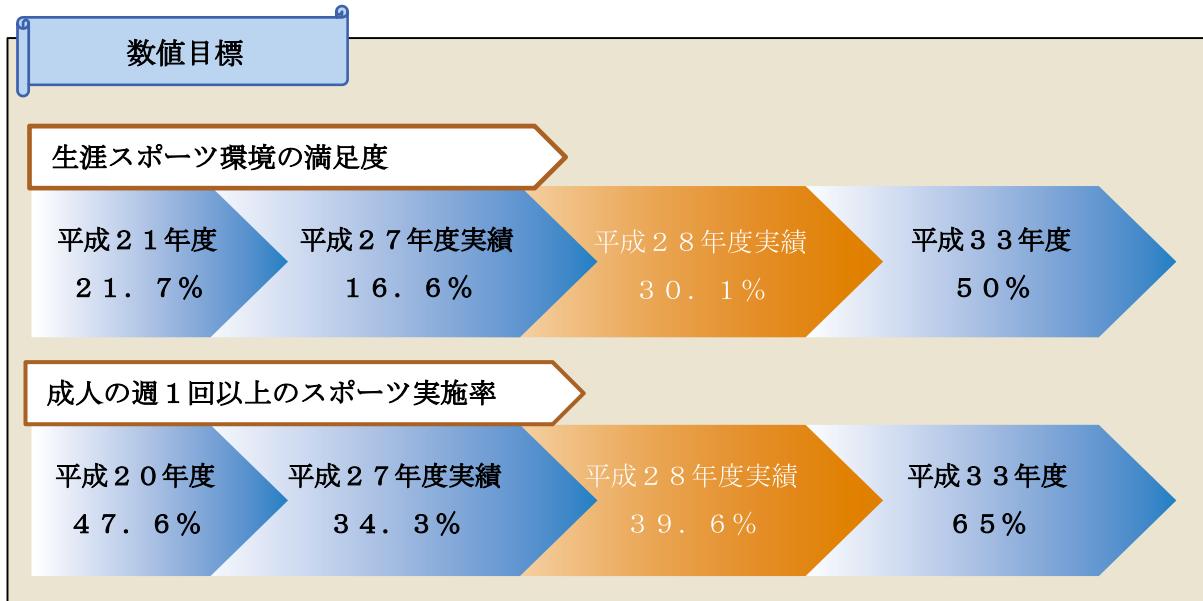
計画策定から5年が経過し、岡山市のスポーツ環境は大きく変わってきています。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催は、スポーツに対する国民の期待と関心を大きく引き上げ、岡山市においてもこうした気運を最大限活用し、市民のスポーツ活動を推進する必要があります。また、平成27年度から岡山県や関係団体との共同で開催されている「おかやまマラソン」は、本市を代表するスポーツイベントとして大きな盛り上がりを見せており、市民のスポーツへの期待はこれまでにないほど高まっています。

こうした現状を踏まえ、各施策の達成状況、課題の検証・評価の結果や国の「第2期スポーツ基本計画（※4）」及び「岡山市第六次総合計画（※5）」の内容を考慮して見直しを行い、将来に向けた本市のスポーツ施策の方向性を示すために改定を行うものです。

### 2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法に基づく「第2期スポーツ基本計画」を指針として定める岡山市のスポーツ推進に関する計画で、「岡山市第六次総合計画」のスポーツ分野の個別計画として位置付けます。

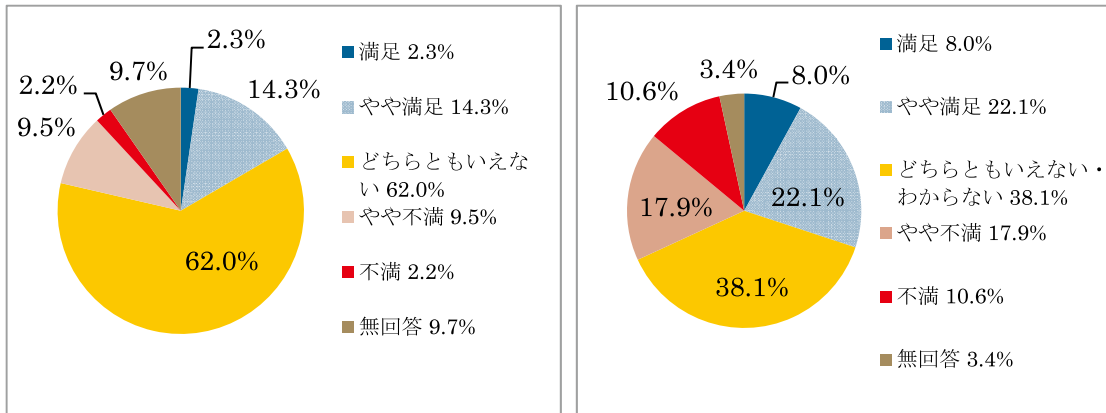
### 3 従前計画の取組内容と評価



市民のスポーツ活動の推進にあたっては、岡山市都市ビジョン 新・岡山市総合計画（※6）の成果指標である「生涯スポーツ環境の満足度」の向上と、国がスポーツ基本計画で掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率」の向上を目標数値として取り組むとともに、市民が生涯にわたって、目的に応じていつでもどこでも気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを進めるため、①ライフステージに応じたスポーツの推進、②トップスポーツの推進、③スポーツ施設の整備・充実の3つの基本方針のもと、地域のスポーツ関係団体をはじめ、トップチーム、事業者及び行政が連携し、岡山市民のスポーツ活動を推進してきました。

○「生涯スポーツ環境の満足度」（図1）については、平成27年度実績では、「満足」2.3%と「やや満足」14.3%を合わせた数値は16.6%であり、平成21年度の数値を下回っています。一方、平成28年度の調査では30.1%となっており、1年間で数値が大きく上昇しています。また、「どちらともいえない」と答えた人が62%（平成27年度）から38.1%（平成28年度）に減少しており、調査の状況により数値が変動しています。また、満足していない理由（図2）として最も多くの方が挙げているのは「時間がない」45.6%（平成28年度）となっています。

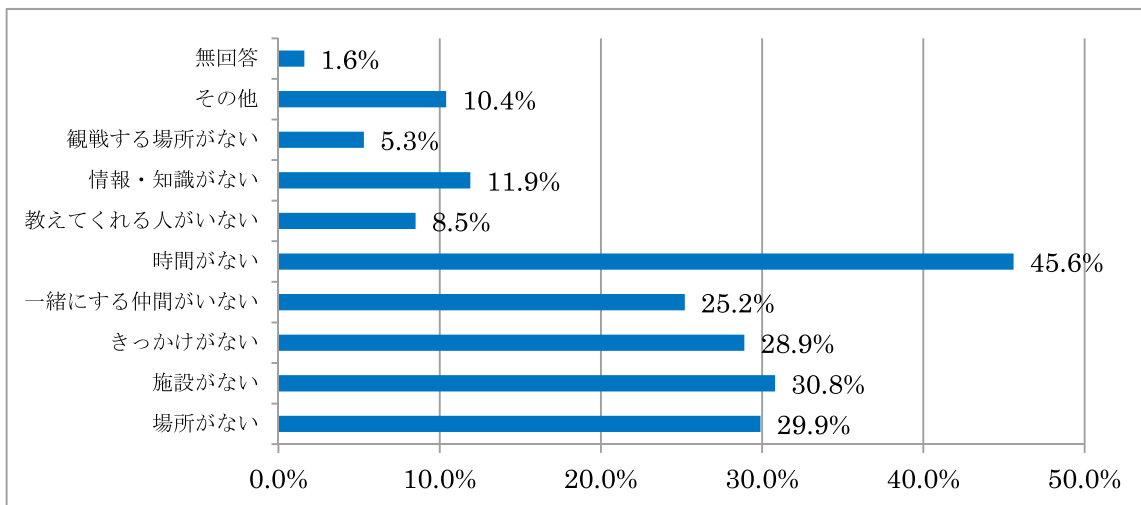
図1 生涯スポーツ環境の満足度



出典：岡山市市民意識調査（平成27年度）

出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

図2 満足していない理由（複数回答あり）



出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

○「成人の週1回以上のスポーツ実施率」についても、平成28年度実績は39.6%であり、平成20年度の数値47.6%を下回っています。岡山市スポーツ市民意識調査（平成28年度）では、「何が変わればスポーツを行うようになるか」との設問に対する回答として、男性は「身近に場所や施設があれば」が27.4%と最も多く、女性では「一緒に行く仲間がいれば」が30.8%と最も多くなっています(表1)。また、70歳代以上では「体力や健康に不安がなくなれば」が

31. 3%で最も多くなるなど（表2）、世代や性別によりスポーツをする上で求められている環境が異なっており、それぞれに応じた施策が求められています。

表1 何が変われば、スポーツを行うようになるか。（性別ベスト5）（複数回答あり）

男性	身近に場所や施設があれば	休暇が増えれば	一緒に行く仲間がいれば	勤務時間が減れば	一人で気軽にできれば 経済的余裕があれば
	27.4%	26.9%	26.0%	20.6%	19.3%
女性	一緒に行く仲間がいれば	身近に場所や施設があれば	一人で気軽にできれば	家事や育児が軽減すれば	教室などの参加料が安くなれば 経済的余裕があれば
	30.8%	30.4%	29.6%	25.4%	24.6%

出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

表2 何が変われば、スポーツを行うようになるか。（年齢別ベスト5）（複数回答あり）

20歳代	一緒に行く仲間がいれば	休暇が増えれば	身近に場所や施設があれば	勤務時間が減れば	一人で気軽にできれば 経済的余裕があれば
	38.1%	38.1%	36.5%	28.6%	25.4%
30歳代	一緒に行く仲間がいれば	経済的余裕があれば	家事や育児が軽減すれば	身近に場所や施設があれば	一人で気軽にできれば
	42.0%	36.1%	35.3%	31.9%	26.9%
40歳代	身近に場所や施設があれば	休暇が増えれば	一緒に行く仲間がいれば	教室などの参加料が安くなれば	勤務時間が減れば
	32.5%	32.5%	29.9%	24.7%	24.7%
50歳代	一人で気軽にできれば	休暇が増えれば	身近に場所や施設があれば	勤務時間が減れば	気軽に参加できる教室やイベントがあれば
	37.1%	35.7%	32.9%	25.7%	25.7%
60歳代	一人で気軽にできれば	一緒に行く仲間がいれば	身近に場所や施設があれば、	体力や健康に不安がなくなれば	教室などの参加料が安くなれば 経済的余裕があれば
	29.9%	25.4%	22.4%	22.4%	13.4%
70歳代以上	体力や健康に不安がなくなれば	その他	身近に場所や施設があれば	スポーツ・運動をすることはない	一人で気軽にできれば 一緒に行く仲間がいれば
	31.3%	16.4%	14.9%	11.9%	10.4%

出典：岡山市スポーツ市民意識調査(平成28年度)

## (1) ライフステージに応じたスポーツの推進

岡山市は、いつでも、どこでも気軽にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、各年代及び障害者のスポーツ振興を目指してきました。

幼児、小学生のスポーツ活動の中心となっているスポーツ少年団や子ども会の団員数は、少子化に伴いやや減少傾向にあります。民間が行うスポーツ教室では参加者数が増加しているクラブもあり、スポーツへの関わり方が変化しています。

近年の中学生の運動部への入部状況は、女子は平成24年度の47.7%から平成28年度には50.3%へと緩やかな増加傾向が見られますが、男子は女子に比べ入部率は高いものの平成24年度の74.5%から平成28年度には73.6%へと緩やかな減少傾向となっており、男女全体では、平成24年度から平成28年度まで、約6割の入部率で横ばい状態が続いています。部活動（運動部）のサポート事業として教員以外の外部指導者の部活動への派遣は、平成24年度の47人から平成28年度には95人に倍増しており、部活動の充実・発展が図られています。（表3）

全世代を対象としたスポーツ大会として毎年開催されている岡山市民体育大会をはじめとする、多くのスポーツイベントの参加者数はやや減少傾向にあります。岡山市のスポーツ振興を担ってきた岡山市体育協会が、平成28年度から一般財団法人化され、岡山市のスポーツ推進体制は大きく強化されており、民間活力の工夫を活かした今後の弾力的なスポーツ振興には大きな期待が寄せられています。

さらに地域からの推薦を受けて市長から委嘱されているスポーツ推進委員については、各地域・学区の体育大会の開催や協力をはじめ、行政及び民間のスポーツイベントへの協力により、市民のスポーツ活動を積極的に支援するだけでなく、スポーツ推進委員自身も積極的に研修会に参加するなど、スキルアップも図られており、今後もこうした活動を通して引き続き市民のスポーツ参画機会の拡大への支援が期待されています。

表3 岡山市部活動サポート事業 派遣状況

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
47人	42人	50人	81人	95人

保健体育課調べ

## (2) トップスポーツの推進

岡山市は、トップ選手の育成として、従来より各競技団体が行う競技力向上事業（※7）に対して補助を行うとともに、全国大会や世界大会などハイレベルな大会に出場する選手に対して激励金（※8）を支給してきました。また、スポーツで特に顕著な成績を収めた選手については、タイミングを逃さずタイムリーな顕彰を行うなど、市民のスポーツへの関心の向上と市民の誇りの醸成を図ってきました。

トップレベルの競技大会については、平成28年度に岡山県を主会場としてインターハイが開催され、高校生トップレベルの競技が繰り広げられました。岡山市では、陸上競技、バドミントン及び剣道の3競技が行われ、大会期間中に選手、監督など約106,000人が来岡され、成功裏に大会を終えることができました。また、平成27年度からスタートした「おかやまマラソン」ではランナー約15,000人、沿道応援を含めた来場者数では約23万人の市民が参加し、スポーツを通じたまちの活性化とスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで市民の一体感の醸成が図られています。

トップチームであるファジアーノ岡山（サッカー）と岡山シーガルズ（バレーボール）を支援するため、市民デー企画や給食企画など様々なイベントを行うことで両チームに対する市民の愛着を育てるとともに、試合観戦者数の増加に取り組んでまいりました。その結果、両チームのホームゲームの来場者数は増加傾向（図3）にあります。

東京オリンピック・パラリンピックの開催を通じて地域振興を図るため、事前キャンプの誘致について、各競技団体へ積極的なPR活動を行っており、平成28年度には3件の事前キャンプが実現しました。

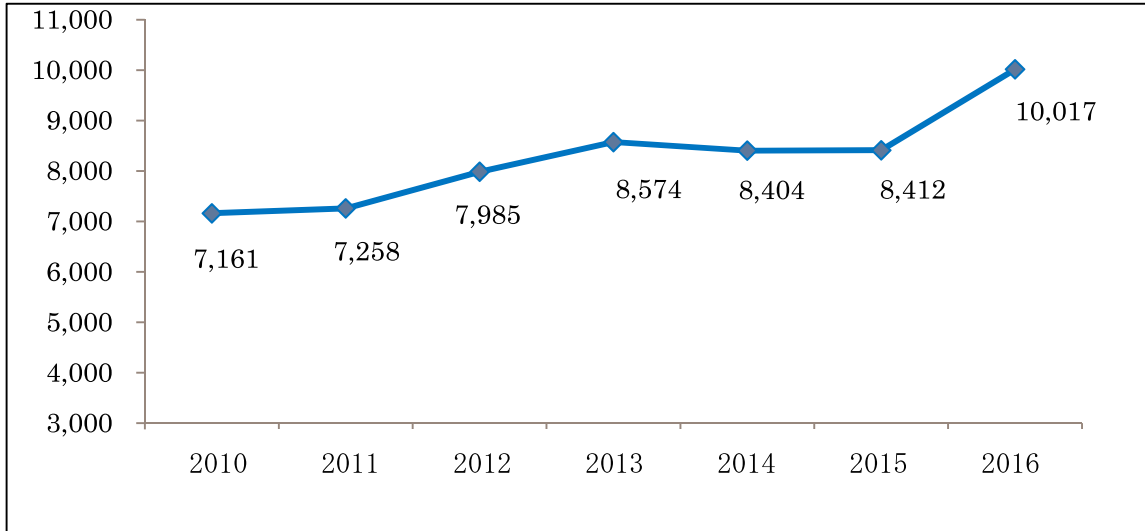
また、ブルガリア共和国を相手国としてホストタウン（※9）登録を行い、各種交流事業を計画し、実施しています。

障害者スポーツでは、平成28年度から民間団体等と連携して、東京パラリンピック事前合宿の誘致をしています。

図3 岡山市をホームタウンとするトップチームの平均入場者数推移

ファジアーノ岡山ホームゲーム平均入場者数推移

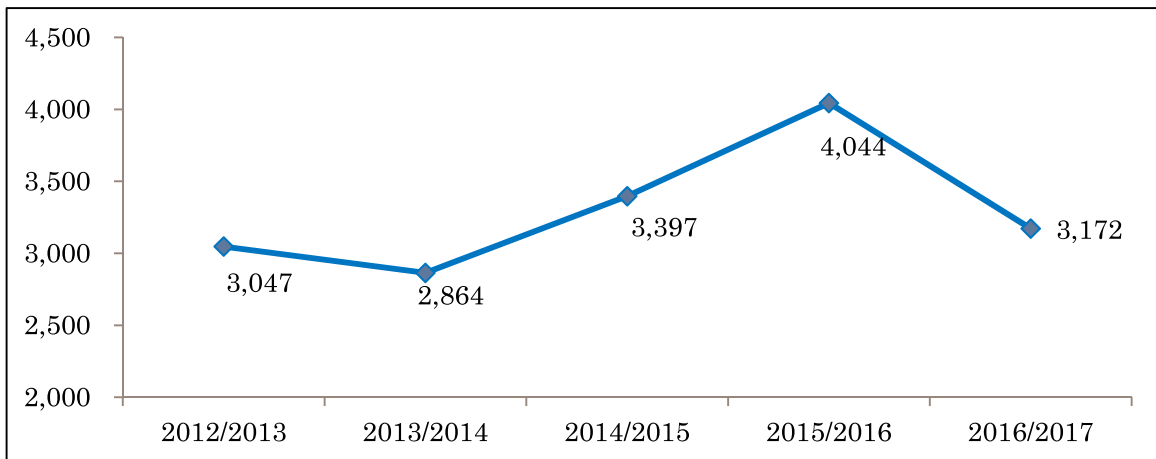
(人)



資料：ファジアーノ岡山

岡山シーガルズ岡山大会平均入場者数推移

(人)



資料：岡山シーガルズ



### (3) スポーツ施設の整備・充実

市民ニーズを考慮した施設整備を行うため、平成27年度に市民、競技団体及びスポーツ関係団体の意見を聞きながら「岡山市スポーツ施設整備方針（※10）」を策定しました。その中でエリアマップも作成しました。

施設の芝生化については、民間が主体となって小学校の校庭の一部で芝生が導入された実績はありますが、維持管理の面でコストや労力などの課題があります。

学校開放事業（※11）では、要望に加えて利用者数などの一定の条件を満たすことで、屋外に照明設備を設置することとしておりましたが、条件が厳しく、平成13年度から25年度までに照明設置は1校のみとなっていました。こうした状況を踏まえ、平成25年度に夜間照明施設の設置基準を大幅に緩和し、照明設置を促進した結果、平成28年度に1校、平成29年度にもさらに1校のグラウンドに夜間照明が設置され、新たな市民のスポーツ拠点の拡大が図られています。

## 4 計画改定のポイント

### (1) 基本方針

本市では平成28年度に本市の将来を見据えた市政の羅針盤となる「岡山市第六次総合計画」が新たに策定されました。「岡山市スポーツ推進計画（後期）」は、その政策の一つである「地域の活力を育むスポーツの振興」を実現するための個別計画として位置づけられるため、総合計画の3つの施策と整合をとり、基本方針を次のとおり変更します。

